



■使用評価マニュアル： CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト： CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ホームセンターパロー千音寺店 本館棟 新築工事	階数	地上2F	
建設地	愛知県名古屋市中川区富田町大字千音寺字平毛1962番	構造	S造	
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,000,000 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	4,004 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年9月 竣工	評価の実施日	2021年12月17日	
敷地面積	15,858 m ²	作成者		
建築面積	9,765 m ²	確認日	2021年12月17日	
延床面積	10,714 m ²	確認者		



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C 環境品質 Q 環境負荷 L	☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア= 2.5		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア= 2.9	Q2のスコア= 3.0	Q3のスコア= 1.7
音環境 2.6 温熱環境 3.0 光・視環境 3.0 空気質環境 3.0	機能性 2.8 耐用性 2.9 対応性 3.6	生物環境 1.0 まちなみ 2.0 地域性・ 2.0
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア= 3.2		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.5	LR2のスコア= 2.8	LR3のスコア=3.2
建物外皮の 2.0 自然エネ 3.0 設備システ 4.5 効率的 3.0	水資源 3.0 非再生材料の 2.8 汚染物質 3.0	地球温暖化 4.0 地域環境 2.9 周辺環境 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
敷地の周りに植栽を取り入れ、景観に配慮している。 来客数に応じた十分な駐車スペースを確保している。 売場内の天井高が十分に取れ、屋外売場もあることで開放的な店舗となっている。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
一般的な設定値である室温の確保ができています。	売場の天井高が十分に取れ、屋外売場もあることで開放的な店舗になっている。	敷地内に緑地があり、景観へ配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEImが0.71で設備システムの高効率化がされている。	内装材が容易に取り外しができ、再利用可能性向上への取り組みがされている。	適切な量の駐車場の確保により、交通負荷の抑制がされている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ホームセンターパロー千音寺店 本館棟 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.094141948	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009414195	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.047070974	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。